

## ネットワークを広げて 地域住民を支援

社会福祉法人大船渡市社会福祉協議会  
生活福祉課 主事 只野 翔

早いもので、大船渡市社会福祉協議会に勤務して今年で5年が経とうとしています。この5年間で一言で表現するなら「目まぐるしかった」の一言に尽きます。

そもそも、私自身もともと医療機関の医療ソーシャルワーカーとして勤務していましたが、大船渡市社協に勤務する直前である平成23年3月11日の東日本大震災発災に

よって、私の実家も被災・流し、避難所生活を余儀なくされました。

その後、大船渡市社協に勤務することとなりましたが、当初は、災害対応をしていた

こともあり、通常業務の内容はもちろん、自分自身の立ち位置もよくわからないまま災害ボランティアセンターの運営を行ってききました。心機一転するつもりが、「何をどうしたらいいかわからない」「大変なときに勤務することになってしまった」とプレッシャーを感じる一方で、震災によって無職になった人もいるなかで、自分は仕事ができる環境にあるという安堵感もありました。

そして、日々多忙な毎日を通り過ぎていたことが震災のことを忘れさせてくれ、仕事が心身の拠り所となっていたと思います。

また、これまで、今回の震災で大船渡市に支援に来ていただいた約40,000人のボランティアをはじめ、多く

の後方支援の社協及び各種団体の皆さんと出会うきっかけになりました。震災がなければ一生出会うことがなかった人もたくさんいたと思います。同時に、多くの方々を支えられてこの5年間過ごしてきたことを強く感じています。

私自身も含め、東日本大震災で被災して失ったものがたくさんあったと思いますが、得たものも少なからずあったと思っています。

災害ボランティアセンター、福祉ボランティア活動及び福祉教育支援事業等を経て、現在は、主に生活福祉資金貸付事業及び生活困窮者自立支援事業を担当しています。

相談者の多くは、様々な生活背景を持ち、複雑な人生をおくってきた人がたくさんおり、自分の持っている常識が通用しないことも多く、毎日が驚きと発見の連続です。そのため、相談者を100%理解することは不可能だと思っていますが、理解する努力だけは怠らないようにと考えながら勤務する毎日です。

また、利用者の多くが私よりも年上で、私自身30年しか生きていないなかで、そのよくな人たちの相談を受けたり、助言をしたりすることに気が引ける部分もあります。

### 新規職員の指導役や 地域福祉活動の推進役に

只野主事は東日本大震災の年に入職し、本来であれば、研修を行ってから職務に就くのですが、当時はその余裕も



社会福祉法人  
大船渡市社会福祉協議会  
生活福祉課 課長補佐  
熊谷 淳一

なく、災害ボランティアセンターで、ボランティアの受入れ調整等の業務を行ってもらいました。右も左も分からない状態での毎日、かなりつらかったと思います。

平成28年度は、3名が新規採用となるので、只野主事は先輩職員として、今までの経験を生かし、新規採用職員の指導役や、今後の地域福祉活動の推進役として取り組んでもらうことを期待しています。

それでも、相談者が相談に至るまでに多くの葛藤があったことを考えれば、その人の人生を半分くらいは背負う覚悟で全力で応えなければ、と思っています。

一方で、どんなに全力で対応しても1人では限界があるのがこの事業だということも痛感しています。経済的課題への支援は生き死にと隣り合わせであると同時に、医療、介護、子育て、家庭等多数の問題が絡み合っていることが多いので、関係機関や様々な人に協力を求めていかなければなりません。

勤務当初、ある先輩職員の人脈の広さに驚きを感じ、私もそんな人になりたいと思

ながら今までやってきました。それが、今だけできていくらかわかってませんが、これからは人脈をひろげつつ、多くの人の協力を得ながら、頑張っていこうと思っています。

### 表紙写真●笑顔の福祉

「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」のスローガンのもとに開催された「希望郷いわて国体」冬季大会では、大会中、県社協障がい者福祉協議会の15施設等が約100品目の製品を販売。来県された方々に復興に向かって力強く前進する福祉施設の姿と、感謝の気持ちを感じていただきました。

◆発行人／桑島博

◆編集人／古内保之

◆発行所／岩手県社会福祉協議会・岩手県共同募金会  
〒020-0031 岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド 岩手 電話019-637-4466

◆定価200円(県社協会費には本紙の購読料が含まれています)

FAX 019-637-4255

※の広報誌は発行経費の一部として、赤い羽根共同募金の配分及び岩手県福祉金の助成を受けています。